

涙を拭われる神

ヨハネの黙示録 7 : 17



司祭 ヨハネ 井田 泉

2018年10月28日・諸聖徒日

逝去者記念聖餐式

奈良基督教会にて

今日わたしたちは、わたしたちより先に地上の生涯を終えて休みに入った方々を記念して礼拝をささげています。

今日は、使徒書の最後、ヨハネの黙示録第 7 章 17 節の言葉に耳を傾けることにしましょう。これは当時の教会指導者のひとり、長老ヨハネが迫害の中で捕らえられ、地中海のパトモスという島で祈っていたときに経験した、不思議な場面のひとつです。

長老ヨハネは、ローマ帝国の迫害の中に苦しむ人々の多くの涙を見て来ており、彼もまた心に涙を流しながら祈っていたに違いありません。彼は、祈っているうちに体は地上にありながら霊において天に引き上げられて、天上の礼拝を目撃しました。

白い衣を着た非常に多くの人々が神を賛美して礼拝しています。神と救い主イエス・キリストがここにおられることをはっきりと感じます。もはや地上的な思いから解放され、清められた人々の聖なる祈りが満ちています。そのとき、天の長老の一人が彼に語りかけてこう言いました。

「玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれる。」ヨハネの黙示録 7:17

わたしたちが今日記念する方々も、それを表に表すかどうかは別として、多くの涙を流してこられたことと思います。またわたしたち自身も同じではないでしょうか。

そこで今、聖書の中から、涙を流した 3 人の人を短く思い起こ

すことにします。

一人目は**エレミヤ**です。エレミヤは紀元前 6 世紀のユダの預言者です。彼は当時の社会にも、人々の振る舞いも心にも、真実がないことを嘆いた人でした。いくら彼が神の言葉を伝えても、人々は聞こうとするどころか、ますます頑なになって彼を迫害するので。彼はこう言います。

「あなたたちが聞かなければ、わたしの魂は隠れた所でその傲慢に泣く。涙が溢れ、わたしの目は涙を流す。主の群れが捕らえられて行くからだ。」エレミヤ書 13:17

エレミヤは迫り来る悲劇を予見していました。彼は、人々の神への傲慢、人どうしの傲慢が、やがてみずからを滅ぼすことになるのを嘆いたのです。

二人目は**ヨブ**です。**ヨブ**は歴史上の実在の人物というよりは、ヨブ記という信仰的文学に登場する主人公です。ヨブはまっすぐな信仰の人で、絶えず祈り、人々のために尽くしてきた人でした。ところが彼は突然の不幸に見舞われます。家族をなくし、財産をなくし、体には全身にできものができて地に伏します。それを聞いた友人たちが慰めに來るのですが、結局は彼らも「ヨブが何か悪いことをしたからこうなったのだ」と責めるのです。ヨブは地上にはだれも味方してくれる者はないことを知り、このように叫びます。

「わたしのために執り成す方、わたしの友、神を仰いでわたし

の目は涙を流す。」ヨブ記 16:20

神だけがわかってくださるはずだ。神だけにヨブは訴えるのです。罪なくして、故なくして耐えがたい苦しみを強いられたヨブの叫びと涙は、この世界の不義に苦しむ人々の思いを代弁してくれているかのようです。

そして三人目は、イエス・キリストです。イエスさまは愛するベタニアのラザロが死んだとき、そこに行かれました。ラザロの姉妹マルタ、マリアも、周りの人たちも悲しみに打ちひしがれて泣いていたとき、イエスはラザロの墓に行こうとして涙を流されました（ヨハネ 11:35）。人々はそれを見て言いました。

「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」

イエスは人の悲しみと痛みを知っておられます。一緒に涙を流されます。そしてこの方が、初めに聞いたように、わたしたちの牧者、羊飼いとなって、「命の水の泉へ導いてくださる」のです。

そのとき先ほど聞いたように

「神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれる。」

ほかのだれでもない、神さまが、神さまだけが人の立ち入ることのできない人の深みの底から、慰めを与えてくださる。そして一人ひとりの目から、涙をぬぐってくださいます。

この約束の言葉を心に宿して、わたしたちの大切な方々をこの方にゆだねて、希望をもって生きていきましょう。